

THE UKI NEWSLETTER

熊本県災害派遣第1陣に参加

能登半島地震 被災地で宇城市職員が活動



左 海岸線沿いの陥没した道を進む熊本県の派遣自治体職員 中央 輪島市内各地で見られる被害に遭った建物 右 ひと月たった今でも火災で燃えた匂いが残る輪島朝市

市長政策課 ☎32-1803

被災地に市職員を派遣

1月1日に発生し、正月の日本列島に衝撃を与えた令和6年能登半島地震。

市では、平成28年の熊本地震での経験を少しでも生かし、全国から受けた多くの支援への恩返しをするため、職員を被災地に派遣することを決定しました。

本市職員を含む熊本県内の市町



住宅の被害状況調査をする藤本さん

遠方からできることには限りがありますが、まずは、被災地への関心を寄せ続けていくことが大切だと思います。

voice

継続的な支援の重要性を 実感

市長政策課 藤本 大介 主任主事

私は石川県輪島市で建物の被害認定調査をし、多くの倒壊家屋や土砂崩れ、道路の陥没などの被害を目の当たりにしました。特に印象に残ったのは、担当した調査地区では家を離れた人が多く、自治会が機能せずに、市が発信する情報が高齢者に伝わりにくかったこと。

自治体職員の継続的な支援で被害認定調査は加速していくと思いますが、復旧・復興には長い時間がかかると感じました。

義援金を受け付けています

受付期間 3月29日(金)まで(予定) ※平日のみ
受付時間 8時30分～17時15分
場所 本庁1階総合案内、各支所
総務課 ☎32-1798



※集まった義援金は、日本赤十字社へ送金します。寄附金控除を受ける場合は、宇城市社会福祉協議会や日本赤十字社から寄付をお願いします。

村で構成されたメンバー26人が、第1陣として約1週間にわたり住家被害の認定調査や罹災証明書の交付業務などに従事。1月31日に任務を終えました。市では、今後も継続して職員を派遣していきます。地震で犠牲となられた皆さまにおくやみを申し上げるとともに、被災地域の皆さまの安全の確保を心よりお祈りいたします。

魅力・活力のあるまちづくりへの貢献に感謝 企業版ふるさと納税 感謝状贈呈式



ソフトバンクホークス打撃コーチで市出身の吉本亮さんも参加

宇城市スポーツ講演会でトーク元メジャーリーガー 松坂大輔さん

1月30日、ウイングまつばせで元メジャーリーガーの松坂大輔さんが講演。少年野球や部活動でプレーする児童生徒やその保護者、指導者など約700人が集まりました。

この講演会は、子どもたちに本物の技術や経験を感じ、夢や感動を与えるとともに、指導者の育成につなげるため、ふるさと納税の寄付金を活用し市教育委員会が開催しているもので、今回が4回目。

松坂さんは「試合で緊張したり不安になったりしたときには、どうしているか。」という質問に「プロでは、事前の準備の大事さを実感した。試合の前に、できるだけ最悪の状況をイメージすることで、本番でピンチになっても落ち着くことができる。」とアドバイス。

「平成の怪物」が語るさまざまな経験を踏まえた実践的な話や当時感じていた想いなどに、参加者は熱心に耳を傾けました。



質問した4人の子どもたちには松坂さんからサイン色紙がプレゼントされました

講演会は動画でも放映中



松坂さんからのメッセージ

今回僕が話したことに理解や納得ができない人もいるかもしれませんが、いつかあの時言っていたことはこういうことだったのかと気付いてくれる日が来たらうれしいです。普通の生活で何か生かされることが一つでもあればと思います。



文化スポーツ課 ☎32-1945